



講座のアピールポイント

当講座では、泌尿器科の疾患に対する臨床研究を中心に、基礎研究を含め幅広く研究活動を行っています。当講座で扱っている泌尿器科疾患が泌尿器がん、生殖医療、小児泌尿器科疾患、腎移植、メンズヘルスと多くの分野にわたっているため、当講座で行っている研究テーマも多様なものとなっています。

泌尿器がんを中心に、海外や国内大学との国際・国内共同研究を積極的に行い、多くの業績を上げています。男性生殖医療や、小児泌尿器科において多数の研究業績があることも当講座の特徴の一つです。企業との共同研究も積極的に行いこれからの医療の発展に貢献できるような新規技術の開発、知見の獲得に努めています。

研究成果は、国際学術誌へ投稿し、国際・国内学会でも積極的に発表を行い、多くの賞をいただいています。学会活動として日本生殖医学会、日本小児泌尿器科学、日本メンズヘルス医学会などの学術集会を主宰する機会を得ています。

現在も、国際・国内共同研究を含め、幅広いテーマに対する多くの研究が進行中であり、研究活動を通して講座の発展に努めています。

講座研究紹介

当講座が実施している研究の多くは日本のみならず、国際的に高く評価されています。そのいくつかを示します。

1) 泌尿器がんにおける炎症マーカーの意義

この研究は泌尿器がんに対し、病気の予後や治療効果の評価において炎症マーカーの有用性を検証することを目的としています。特に腎細胞がんでは炎症が病気の進行や治療抵抗性の獲得と密接に関連することを報告してきました。現在は、これまで得られた知見をもとに、海外や国内大学と共同研究を進めています。

2) 排尿における新規画像解析法の開発

この研究は、排尿時のリアルタイム画像により膀胱、尿道の形態変化と流体力学的な解析を行い、新たな排尿シミュレーションモデルを構築することを目的としています。

3) 男性ホルモンと高次脳機能の関連

この研究は男性ホルモンが高次脳機能に与える影響について調べることを目的としています。視線検出技術を用いた低侵襲かつ簡便な高次脳機能障害診断技術が開発中であり、客観的かつ定量的に評価可能な本新規技術を活用し、男性ホルモンと高次脳機能との関連を解析します。さらに virtual reality を用いた各種リハビリテーションや薬剤の介入による認知機能低下の予防を目指しています。

この他にも、前立腺がん、腎がん、精巣腫瘍などの泌尿器がんの共同研究や、男性不妊症に対する研究が多く進行中です。